

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連	
<input type="checkbox"/> 有	
<input checked="" type="checkbox"/> 無	

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	水道水安定供給事業							
1-2 担当	部	市民部	課 又は施設	環境課	係	環境保全係	評価票作成者	環境保全担当係長 石川 広
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			基本施策	水資源	コード	1 2 5
	項	水と緑の環境づくり			単位施策(中)	健全経営の維持	コード	1 2 5 2
					単位施策(小)	健全経営の維持	コード	1 2 5 2 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	愛知中部水道企業団		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	企業団の健全経営を促し、市民が安心して利用することのできる水道供給を維持していく。			
1-5 事務事業の内容	水道水の安定した供給ができるように健全経営を図る。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	平成18年度	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み 企業団との連携事業を検討した。	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握 一部事務組合である中部水道企業団も健全経営が必要である。	市民ニーズの認識 企業団の工事に対して厳しい視線が注がれる環境下にある。
	平成19年度	企業団との連携を密にし、市民の要望を伝えるようにした。	"	大地震の発生により、ライフライン(水)に対する危機管理意識が深まった。
	平成20年度	企業団と事務方職員の打合せ会を実施した。	"	下水道料金の改定に伴い、水道料金そのものに対し関心が強くなった。
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	企業団に対する苦情(件)		10(件)	5(件)	企業団への満足度を示す指数。平成16年度実績12件

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(件)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	3(件)	2(件)	1(件)							
	人件費 c(千円)	0	0	0							
	合計コスト d(b+c)(千円)	6	6	6							
	単位コスト d/a(千円)	1件当たり 2	1件当たり 3	1件当たり 6	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 活動実績...市へ寄せられた中部水道企業団への苦情件数。人件費...職員0.001人分。

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	3	2	1							
	後期目標値に対する達成度(%)	128.5	142.8	157.1							

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A	A							

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 - B : 事務事業の実手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 - 公共性(公が実施する意味があるか)
 - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識			次年度に向けて改善する取組み			事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価		
	平成18年度	中部水道企業団への住民の認識も厳しい。			企業団と連携を密にし、苦情対応を迅速化する。			苦情内容をしっかりと市で受け止め、企業団へ対応を求めた。	
平成19年度	豊明市の水道水は、愛知中部水道企業団によって給水されていることの認識が低い。			企業団へお客様相談窓口の開設を希望する。			水道事業に対する市民要望を漏れなく正確に企業団へ伝えた。		
平成20年度	水道料金が県下で上位に位置づけされている。			市民の声をしっかりと企業団に届ける。			企業団と連絡を密にし、市民からの苦情に対し迅速な対応を図れるようにした。		
平成21年度									
平成22年度									
平成23年度									
平成24年度									
平成25年度									
平成26年度									
平成27年度									

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			